



初の女性総理大臣誕生

10月4日に開票された自民党総裁選挙で高市早苗氏が総裁に選ばれ、史上初の首相誕生か、と思われましたが、すんなりとは行きませんでした。公明党の連立離脱をきっかけに、目まぐるしく変わる政局に目が離せない状態でしたが、維新との連立でようやく高市総理大臣の誕生となりました。

この間の駆け引きや政策議論を通じて、国民各自が自分にとって大事な政策は何かということが明らかになってきたのではないのでしょうか。経済政策は全ての人の関心事ですが、積極財政派と言われる高市氏がどのような政策を実現できるのか注視していきましょう。

外交・軍事・憲法改正は急速に右ぶれしていくのか、原発回帰や核融合発電がスピードアップするのか、理念的な面では歴史認識や LGBTQ、同性婚、人権課題は？福祉や地方自治はどうなるのかなど、様々な視点から新政権の施策をチェックしていく必要があります。

そして、前回のレポートでは「多様な政党による集団指導体制の道筋をつけ、多様性へのレジリエンスを」と書きました。

現在の小選挙区制は2大政党の政権交代を想定したもので、その実験は日本には合わず異なる意見の対立を際立たせる結果となりました。対立するものを否定するだけの危なっかしい社会では幸福は得られません。

多様性を受け入れ維持するためには、極端な対立や急激な変化を少なくして包摂的な社会をつくる必要があります。中選挙区制では 7 割近くの国民の意見を反映できていましたが、選挙制度の再考が今必要です。

どうなる？太陽光パネルリサイクル

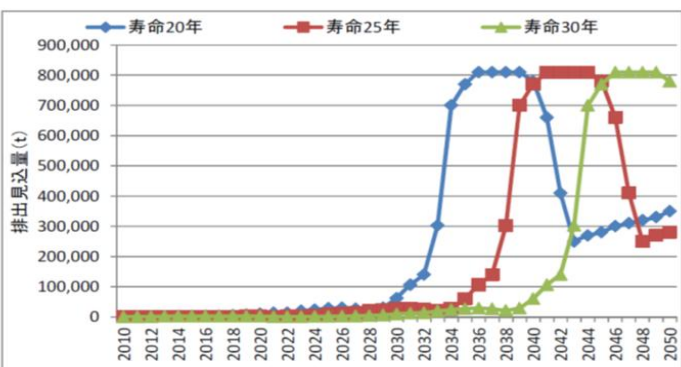
シリコン系パネルのリサイクル方法はパネルからアルミフレームを外し、バックシートと呼ばれるシートから

9月、生活クラブ生協の企画に参加し太陽光パネルリサイクルの中間処理工場を見学しました。川崎市扇島にある東京電力グループの東京パワーテックノロジー(株)です。

2012年に固定価格買取制度(FIT)がスタートし、2014年前後に太陽光パネル設置のピークがありました。パネルの耐用年数を迎える2030年前後に大量廃棄の時期が予想されています。



使用済み太陽光パネルの排出量推計(環境省推計)



また、シリコン系の太陽光パネルの処理技術は確立されていますが、化合物系、有機系などについては国内での処理技術は未成熟です。現在注目されているバックシートについても、廃

棄やリサイクルの技術や体制についてしっかりと注視していく必要があります。「太陽光パネルリサイクル義務化法案」は、2025年国会での成立を目指していましたが、誰が費用負担をするか等がめぐり先送りとなる

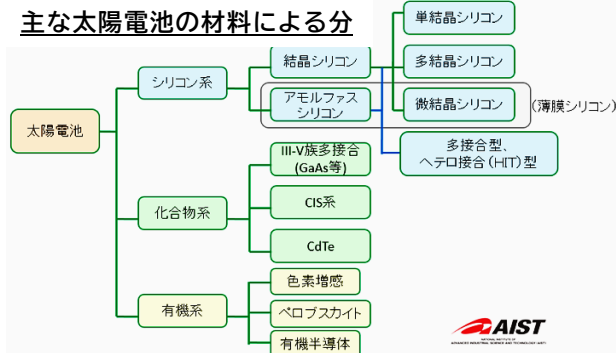
ガラスとそれ以外のものを分離するという比較的単純な方法でした。アルミや粉砕されたガラスはリサイクル原料として専門業者に、その他のものは製錬業者に引き渡し、鉛や銅といった金属は再資源化され、リサイクル率は100%との事でした。

現在、太陽光パネルは産業廃棄物として処理されていますが、リサイクル市場はまだ需要が少なく事業者も少ないとのこと。東京都では9事業



バックシート

主な太陽電池の材料による分類



AIST

リサイクルルートに適さない、定形外のパネルや災害により破損したパネルなどは少量ではあるものの、手作業などで粉砕し埋め立て処分されるものもあるとの事です。埋め立て処分を極力ゼロにする事は急務ですが、法的整備、技術的整備、市場での体制整備を強く求めなければならなりません。

また、シリコン系の太陽光パネルの処理技術は確立されていますが、化合物系、有機系などについては国内での処理技術は未成熟です。現在注目されているバックシートについても、廃棄やリサイクルの技術や体制についてしっかりと注視していく必要があります。

「太陽光パネルリサイクル義務化法案」は、2025年国会での成立を目指していましたが、誰が費用負担をするか等がめぐり先送りとなる

戦争と平和の記憶 ⑨



知り合いに留守番を頼まれて住んでいた高田馬場のマンションは広く、母は満州時代の仲間に連絡して呼び寄せ、母と叔母と合わせて5人がそのマンションに泊り込み、夜を明かして満州時代の思い出話や、帰国してからそれぞれの苦労話が繰り広げられました。

水戸出身で、すでに日赤の看護婦だったHさんは徴用された後も婦長としてみんなの指導をした人で、帰国してから水戸で保健婦として働き、生涯を地域医療に捧げました。Hさんは終戦の後、12月をハルビン(阿城アジヨウ)に足止めされ、デパートだったビルで過ごしたのです。

野戦病院で従軍しているとき、当時医療などに接したことのない中国農村部の人が脚氣の子どもを連れて診察をして欲しいとやって来て、薬も無いので大根おろしの汁を吞ませたら、それが効くとわかったという話に当時の農村部の暮らしが想像されました。

従軍の途中で大きな石に腰を掛けて休んでいると、日本人の医師が、内戦によって破壊された大きな遺跡だとして教えてくれたこともあったそうです。また、内戦の中、それまで日本軍に協力的だった富裕層などが路上で集団から「批判」を受け吊し上げられる場面は皆が様々に目にしています。激動と混乱の内戦時代です。

ハルビンの冬は全てが凍り付く寒さですが、コンクリートの床に敷く物もなく、かろうじて麻袋のようなものがあり被って寝ると、翌朝は何人もの人が亡くなっている、その遺体を置くように出入りをしなければならなかった。そして、トイレも無く、大きな木の樽が置

かれたところに皆が用を足すのでひどい悪臭に満ちていたそうです。

Hさんは、飄々とした飾らぬ人柄と真面目さで皆に尊敬されていました。

戦争と平和の記憶 ⑨

(次回に続く)

村上洋子

いきいきレポート

NO.25 2025. 10. 25



2024 年度決算を認定しました。

2024年度の一般会計及び各特別会計を合計した歳入歳出予算現額は、それぞれ660億9,864万3,578円ですが、その歳入決算額は624億4,689万208円、歳出決算額は612億2,884万741円となりました。

歳入歳出差引額（形式収支）は12億1,804万9,467円の黒字であり、形式収支から翌年度へ繰り越すべき財源2,981万5,000円を差し引いた実質収支は11億8,823万4,467円の黒字となりました。

一般会計において福祉分野では重層的支援体制整備事業や、発達相談の体制を充実する稲城市発達支援センター1分室、重症心身障害児（者）等通所施設の開設を行い、子ども・教育分野では稲城市子ども計画や第四次稲城市教育振興基本計画の策定、学校給食費物価高騰等緊急対策臨時負担補助金を公立小中学校の全員に給付して保護者負担を軽減、「国連を支える世界子ども未来会議inINAGI」の開催、二小平尾小の普通教室整備、小学校で空調機が未設置であった特別教室へ空調機を設置し、城山小学校体育館にバリアフリートイレを設置、義務教育就学時医療費助成制度・高校生等医療費助成制度における所得制限を撤廃、ファーストバースデーサポート事業の育児パッケージ配布額1万円を6万円に拡充などを評価致します。

病院会計において入院収益など基本的収益の確保に努力が見られたものの、人事院勧告による人件費の高騰、物価高騰による医療材料費等の高騰などにより、経常損失9億4千万円となり前年度比3億5千万円の減収、前年度繰越欠損金と合わせると当年度末処理欠損金は14億6,135万3,978円となります。

2024年度における自治体病院の決算状況は9割近くが経常赤字という異常事態で、全国自治体病院協議会には国に対し「緊急要望」を提出し緊急の経営支援を求めている、その動向を注視していきます。

9月議会の注目議案

■第45号議案 稲城市立図書館設置条例の一部を改正する条例

■第65号議案 稲城市立図書館の指定管理者の指定について

市はiプラザ図書館を除く全ての図書館を指定管理に移行するとして、条例改正と指定管理者の指定を上程しました。

稲城市立図書館協議会の答申は指定管理への方針を適当と評価し、市は利用者から高い満足度が得られているPFI事業での中央図書館の運営の継続と、開館時間・開館日の延長・拡大等、市民・利用者サービスのさらなる向上を図れるとの評価から指定管理者制度を導入するのが最善と判断したとの事。

公募型プロポーザル方式による総合的評価により選定、代表者を株式会社NTTデータとするいなぎ図書館同事業体を指定管理者に指定しました。

9月議会 村上洋子の一般質問

■1. 下水熱利用の可能性について

都市において、整備された下水道の下水は恒久的に利用可能なエネルギー源となります。稲城市カーボンニュートラル推進計画では再生可能エネルギーの導入促進を掲げており、下水熱利用の可能性についても検証を行うべきと考え、市の認識を問いました。

〈答〉国の方針は都市の低炭素化及び再生可能エネルギーの導入促進を目的として、下水熱の有効利用を推進しており、平成24年に「下水熱利用推進協議会」を設置し、事業採算性向上や制度整備に向けた情報交換会を行い、ガイドラインや下水熱ポテンシャルマップ作成の手引きを策定して、地方公共団体へのアドバイザー派遣等の導入支援を行っている。

下水熱利用の方法は、下水処理場や、下水道管内に熱交換器を設置し、ヒートポンプで熱を回収・供給する。事例集では、豊田市の高齢者福祉施設で、下水道管きょから熱エネルギーを回収し、水熱源ヒートポンプを介して施設にお湯を供給する熱利用や、新潟市が保有する農業用ハウス「花ステーション」の暖房として使用している中・小規模の事例がある。

稲城市における下水熱のポテンシャルは、東京都下水道局が管理している稲城幹線においては、419ギガジュール（約11万6千キロワット）で6段階の下から2番目で密度としては低い。市が管理している管きょは、都が管理している稲城幹線よりさらにエネルギー密度が低いため、採算性など考慮すると実際に活用することは困難。

採算性などを考慮すると実際に活用することは困難との回答でしたが、都の管きょにおいて民間の事業者が熱利用することも法的に可能であり、引き続き技術革新などの情報収集に努めることを求めました。

■2. 京王相模原線と JR 南武線の駅を結ぶ交通アクセスの整備について

■3. 稲城市高齢者福祉計画（第5次）・稲城市介護保険事業計画（第10期）の策定に向けた課題と取り組みの方向性について

9月議会村上洋子の一般質問の録画をご覧ください



村上洋子 と おしゃべりタイム

日時:11月3日(月)祝日 14:00~15:00

会場:稲城ネット事務所

(稲城駅近く、百村 1608-3 サンコーポ 202)

Google meet 併用 <https://meet.google.com/ing-rzob-opt>

9月議会の報告も致します。 どうぞご参加ください。

